2024
vol.42
Feb

黄河の森
K F G

発　　行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢 野 正 行
編集責任者／小 川 良 太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通7－11－12
福建会館内
TEL・FAX:078-360-2779
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL.http://www.kobe-chinese.com/kouganomori
ＩＰ：05031111874

「六甲山住吉台植樹地の標識」

ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

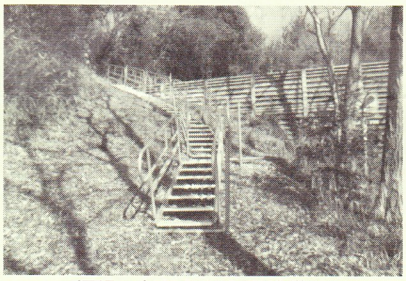
P.2　事務局からの報告
（この一年の活動と**事務所の移転**）
歴史の中の植物　2
P.3　絵本からのメッセージ ㊲
P.4　環境史・土地開発史・災害史 ④
事務局からのお知らせ

事務局からの報告　この一年の活動と事務所の移転

２０２４年は元旦から能登半島地震・羽田空港での航空機事故と大惨事の年明けとなりました。地震では関西地域でも被害が出るほどではありませんでしたが、強い揺れがあったので驚かれた方も多かったのではないでしょうか。自然災害と人的ミスによると原因の違いはあっても、多くの人命を失うといった悲惨さには変わりありません。被害を少しでも小さくするためには、社会も個人も日頃の備えをすることの重要さを再認識させられました。当会も自然環境の保全をテーマとして活動しております。少しでも資することがあればと考えております。今年も多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

植樹活動

六甲住吉山手植樹地(国交省六甲山系グリーンベルト整備事業地)では昨年も、活着せず枯れた苗に代わり補充の植樹を行いました。これまで２０年近く植樹を継続してきましたが、苗が根付き樹高１０ｍ近くまでに大きく成長した地区と、活着率が低く・成長の遅い地区に分かれてきました。おそらくは土壌と地表下の水分量の違いかと想像しています。昨年の堰堤建設工事で新たにできた土砂捕捉地と、その両側面の新たに削られた斜面地を中心に今年も植樹活動を実施する予定です。


堰堤に新設された昇降階段

平坦な土砂捕捉地も大きく広がりました。これまで植樹地へ行くのには２基の堰堤を越えていましたが、それには堆積土によりできたスロープを利用していましたが、このたびそれぞれに昇降階段が新設されました。植樹地の景観も変わり、重い用具類の運搬にも安全に往来できるようになりました。

植樹地では毎年野生動物が春先には植樹苗の新芽、秋にはドングリやクリを食べに来た痕跡がありました。この２年間は工事中であったためか野生動物が訪れた気配を感じることはありませんでした。しかし、この冬には湿地でイノシシが地中のミミズなどを探すため掘り返した跡や、水辺には多くの足跡が残っていました。

水辺のイノシシの足跡

事務所は福建会館内に移転しました

事務所はこれまで華僑会館内に置いておりましたが、同会館の改築事業・完成に伴い移転することになりました。2024年１月からは神戸福建同郷會のご厚意を得て、神戸市中央区内の福建会館事務所内に移転しました。

2002年の「黄河の森」の発足以来事務室を提供していただいた華僑総会には感謝申し上げます。

【新住所】

〒650-0011
神戸市中央区下山手通 7-11-12
福建会館内
新電話・FAX 078－360―2779
メールアドレス・ホームページは変更ありません。

歴史の中の植物 2
木から布を織る「かじ(穀・梶)の木」

小川良太（会員）

人の生活に必須の布は、動物・植物性を問わず工夫を凝らして繊維を取り出して利用してきた。日本ではモメン（綿花）が室町時代後期に伝来するまでは、絹と草木布の二種であった。草木布には現在よく知られている麻布をはじめ葛布・芭蕉布・藤布などがある。

昨秋、大阪の四天王寺を参詣する機会があり、その際境内の一角に二本の木とその説明書きを目にした。そこにはこの木を植えた由来が記されていた。四天王寺には「国宝扇面法華経」冊子（平安時代）が所蔵されており、その中の一面にカジの葉に和歌を書いた場面がある。これに因みカジの木を植えたようである。カジの木は日本の古代においては、その樹皮の繊維が衣類、あるいは紙漉きの素材として広く用いられていたことが知られている。

国宝扇面法華経に描かれていたのは、七夕の行事の場面であり、藤原俊成の「七夕のとわたる船の梶の葉にいく秋かきつ露の玉章」とある。時代が降って江戸時代の宮中でも天皇が芋の葉の露で墨をすり、短冊の代わりに葉に七首の和歌を書き、それをカジの樹皮と素麺を結び付けて屋根に投げ上げる風習があった。このようにカジの木が七夕祭りと深く結びついていたことが窺える。カジは神道では神聖な木とされ、その繊維からは神前に捧げる幣帛（ミテグラ）を作成した。あるいは神事の供物の敷物としても利用されている。また神社の境内に植えられることも多い。その葉の姿は諏訪神社の神紋や家紋としても描かれている。

カジ（梶・穀）の木は成長すると、高さ１０ｍほどに成長するクワ科の高木落葉樹であり、雌雄異株である。秋には甘い実が成り食用にもなる。国内では中部地方以西で広く自生するが、古くから栽培されていたもの

が野生化したものと見られている。国外では中国南部から東南アジア・太平洋諸島で栽培され自生化している。これらの地域でも古代から織物(タバ・カバ)を作っていた。中国の３世紀後半の文献に「江南地方ではその皮を紡いで布にする。また搗いて紙にする」とあり、６世紀の「広州記」には「穀皮を取り、槌き熟して布を作り、それを氈に擬するが甚だ暖」と記録している。現代の中国でも伝統紙の画仙紙（宣紙）の主原料として、葉は豚・牛・羊などの飼料として利用されている。また煙などに強いため工場・鉱山の緑化樹としても用いられている。

日本では古墳時代からカジに限らず、樹皮の外皮の下にある柔らかい内皮から繊維を取り出し木綿(ユウ)を作っていた。この木綿で織った布を高知・徳島県地方では太布(タフ)と呼んでいる。この繊維は布ばかりでなく、紙漉きの原料ともなる。

古代の人々の衣料には絹もあったが、絹は特定階層のみが利用できるもので、庶民は麻その他の木布を利用していたと考えられる。麻布は夏季の衣料として重宝されるように、保温には適していない。冬季の寒さは特別なものであったと想像される。そのため麻布を何枚も重ね着をしたようである。徳島県祖谷地方には、冬の寒さを「五枚さむ」・「七枚さむ」と言い表したそうである。近世の民俗例では繊維クズや古着をほぐしワタのようにしたものを「麻屑（オグソ)」といい、これを詰めて「布子(袷)」を作り着用、あるいは麻袋に詰めて夜具として利用した。暖かく、柔らかいモメン（綿花）が広く庶民に行き渡ったのは江戸時代半ば以降のことで、全国の藩が殖産のため綿花の栽培・綿布の生産を奨励したことが大きく与かった。

木綿の語は現代では綿花を原料とする繊維のことを表すが、古来は麻をはじめ樹木皮から採取した繊維を表していた。メンカ（綿花）は平安時代初期の延暦１８（７９９）年に参河国に漂着した崑崙人（インドから東南アジア人）が種子をもたらし、その後栽培を試みたが定着しなかったと伝わっている。

江戸時代の国学者「本居宣長」もその随筆集『玉勝間』で、「いにしえ木綿といひし物は、穀の木の皮にて、布に織りたりし事、古へはあまねく常の事なりしを、中むかしよりこなたは、紙にのみ造りて、布におることは絶えたりとおぼえたりしに、今の世にも、阿波の国に、太布といひて、穀の木の皮を糸にして織れる布あり・・・」と記している。このように江戸時代には「木綿」は「ユウ」から「モメン」の意に変化していたようである。

２０１９年７月１３日の毎日新聞に「大嘗祭支える過疎地」とした記事があり、徳島県美馬市で令和の大嘗祭に供えられる麻織物「麁服（アラタエ)」を織るための大麻の刈り取り作業が行われたと報じられていた。大麻の栽培はその毒性のこともあり、特別の許可が必要で、かつ盗難の恐れもあるために２４時間の監視が必要とされる。その苦労を伝える記事であった。平成の大祭の栽培に当たっては畑に白木の鳥居を立て、竹矢来の中で栽培されるそうである。大嘗祭は新天皇が即位後最初に行う新嘗祭のことで、一世一回限りの大祭を指す。そこに供えられる麁服は古代から、阿波国の忌部氏が奉納するものとされている。今はその末裔がその役を担っている。因みに麁服と対をなす「和服（ニギタエ)」は絹織物であり奉納は参河国からなされる。

現在の麁服は大麻の繊維を利用しているが、前記の本居宣長が述べているように本来の材料はカジ等の樹木皮であったのではとの見解もある。

カジの木（四天王寺境内にて）

****

絵本からのメッセージ 37

「はなを　くんくん」

児童文学者　畑 中 弘 子

ぶん：ルース・クラウス
え　：マーク・シーモント
やく：きじま　はじめ
（福音館書店）

「はなをくんくん」は冬眠から目を覚ましたばかりの森の動物たちのお話です。

雪に埋もれた森の中、野ねずみも、熊も、かたつむりも、りすも、山ねずみも、みんな冬眠中です。そして、おや？　目を覚ましたようです。「のねずみが　はなを　くんくん」「くまが　はなを　くんくん」「ちっちゃな　かたつむりが　からのなかから　はなをくんくん」。頁を追うごとに「はなを　くんくん」しながら走っていきます。謎は最後の頁で解けました。様々な森の生きものたちが「はなをくんくん」させ、たどりついた所には、可憐な黄色い花が１輪……。

長いコロナ禍を乗り越えてほっと一息し、もうすぐ桜の季節だと思うと嬉しくなり、「春」と聞くだけで何か幸せがやって来そうに思う私たちと同じように、森の動物たちもワクワクしながら、いい匂いの元にたどりつきました。「うわあい！　ゆきの　なかに　おはなが　さいてるぞ！」

軽快な文と繊細な絵で描かれている名作絵本です。

環境史・土地開発史・災害史 ④

立命館大学環太平洋文明研究センター
特任教授　高　橋　　学

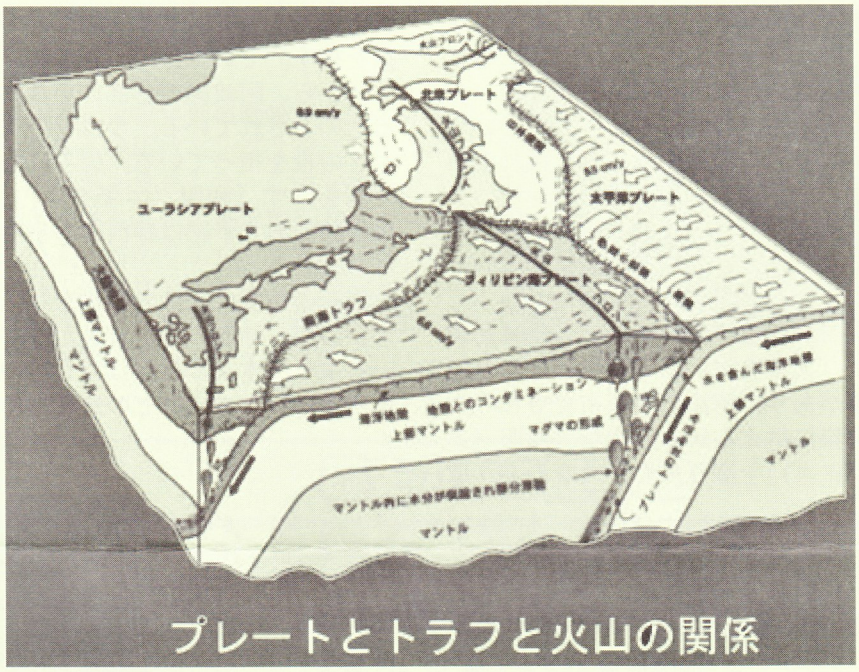
兵庫県南部地震と能登半島地震

２０２４年１月１日午後４時１０分、大きな揺れが起きた。私は岐阜市の鉄筋コンクリートの建物の７階にいた。短い縦揺れの後、部屋が回るような横揺れが起きた。揺れは長く続いた。１９９５年１月１７日午前５時４６分の兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）によく似た揺れ方だった。活断層型の地震だと直感した。震源は能登半島の穴水町北東４２㎞、深さ約１６㎞、マグニチュード７．６、震度７の地震だった。

この数年、能登半島では群発地震が続いていた。能登半島付近は、北海道から関東地方がのる北米プレートとその西側に位置するユーラシアプレートの接点である。日本列島付近は、４枚のプレートが集中している世界でも極めてまれな地域であり、能登半島付近は日本列島のひずみが大きくなる場所である（図１）。

北米プレートは太平洋プレートによって東から西へ圧縮されている。そして、西側のユーラシアプレートと正面衝突している。そのために能登半島の海岸近くで逆断層ができて南側の地域が約４ｍ隆起した。通常、プレートはどちらかが下にもぐり込むけれど、北米プレートとユーラシアプレートの関係は正面衝突型である。そのために、プレート境界であるにも関わらず兵庫県南部地震と同じ逆断層ができ、震源の深さも１６㎞とほぼ同じだった。

この地震を引き起こした「影の黒幕」は太平洋プレートである。年間約１０㎝東から西へ移動している。そして北米プレートを玉突き状態にしているのである。



プレートとトラフと火山の関係

能登半島地震についてみると被害が大きくなった理由がいくつかある。

１）活断層が浅い震源で動いたために、揺れが大きくなった点である。このことは兵庫県南部地震と同じである。

２）能登半島が人口過疎地域で住宅が老朽化し、改築の手が入っていなかった。神戸との違いは、人口と人口密度であったと考えられる。ここでは老人やひとり世帯が多かったため行方のわからない人が多く出た。

３）能登半島には約２,０００万年前に海底に堆積した第三紀層が広く分布していた。第三紀層は地滑りを起こしやすく、そこを棚田として利用してきた。この特徴により道路が寸断し、外部から救助や救援物資を届けたり、避難したりすることができず、孤立集落が頻発した。電気や水道の復旧がままならないのも携帯電話が不通になったのも地滑りで中継施設が被災したことによる。

４）日本海沿岸では潮の干満が２０㎝程度と少ないため、海岸線ぎりぎりまで住宅が建築されていた。そのため地震直後に発生した津波で被害を受けやすかった。太平洋岸や瀬戸内海では２～３ｍの潮差があるために、それを踏まえて防潮堤や住宅が建築されているのである。

能登半島地震は、兵庫県南部地震が都市型であったのに対して、過疎型震災といえるでしょう。

事務局からのお知らせ

「庭木の健康診断」の連載は終了しました。

当会顧問の天野孝之氏によるコラム「庭木の健康診断」の連載は前号で終了いたしました。樹木医として活動されている同氏の連載は、その専門知識とご経験をもとに実践的な情報を披露していただきました。１５年にわたってご執筆いただきました。長年のご苦労に感謝申し上げます。

通常総会の開催予定

第２１回通常総会の開催は５月に対面による開催を予定しております。皆様には書面にてお知らせいたします。

六甲山クリーン＆グリーン活動

六甲山植樹（植樹・下草刈り）21期

●開催日時　令和６年３月９日(土)　雨天中止
　　捕植作業・下草刈り
●集　　合　ＪＲ住吉駅南広場　（午前９時）
●服　　装　長袖・帽子・運動靴
●持参品　　弁当・飲み水・軍手・雨具・タオル

会費・緑化支援金等協力者のお名前（2023.7.1～2023.12.31現在）　譚　佐華　中谷 安廣　矢野 正行　三角 修一　木村　健　神戸博愛病院

●順不同・敬称略